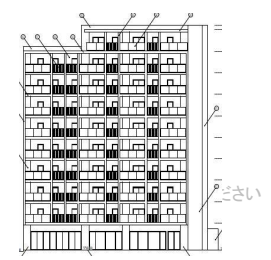


CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)東奈良3丁目(投資開発)計画	階数	地上10F
建設地	大阪府茨木市東奈良	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	139 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年1月 予定	評価の実施日	2024年6月3日
敷地面積	1,002 m ²	作成者	株式会社クロスト設計 湯浅 勝也
建築面積	454 m ²	確認日	2024年6月3日
延床面積	3,549 m ²	確認者	株式会社クロスト設計 湯浅 勝也



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.2

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 設計上の配慮事項		
総合	内装材は全面的にF☆☆☆☆を採用し、室内環境への配慮を行っている。外構には緑地を豊富に設けている。	その他 特になし
Q1 室内環境	開口部遮音にT-2以上の性能を採用している。	Q2 サービス性能 耐用年数の長い建材を採用している。
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内のできる限りの緑地を設けて良好な温熱環境に心がけている。	LR3 敷地外環境 駐車、駐輪スペースの適切な量と場所を確保している。
LR1 エネルギー	LED照明採用	LR2 資源・マテリアル 安全面からノンフロン断熱材の採用

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		(仮称)東奈良3丁目(投資開発)計画 新築工事					
建設地		大阪府茨木市東奈良					
用途/区分		集合住宅					
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★★★★☆				B+	
①	CO2削減	★★★★☆				3	
②	みどり・ヒート アイランド対策	★★★★☆				2	
③	断熱性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	1 2 3 4 5 6 7		4	
④	エネルギー消費性能	★★★★☆				4	
		建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	★☆☆☆☆		1 評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—
エネルギー消費量の報告						対象外	
【評価項目】							
項目	評価内容					スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.2	3
② みどり・ヒートアイランド対策							
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環 2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制					4.0	4
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					4.0	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	-
その他							
先進的技術の導入	技術の名称			考慮事項			
特に配慮した事項							